

人間の幸福

天野 誠（本学教職研究科准教授 教育学）

古代の哲学者アリストテレスは「ニコマコス倫理学」の中で人間の究極的な目的は幸福の実現にあると言いました。すべての人間は生まれながらにしてさまざまな可能性をもっている。それが花開いたときの充実こそが幸福だ。そしてそれを開花させるためには必要な力が4つある。それは賢慮、勇気、節制、正義である。「賢慮」とは判断力。自分が直面しているのはどういう状況なのか、その都度判断する力、次に「勇気」。勇気とは困難に立ち向かう力、そして「節制」。節制は欲望をコントロールする力、最後に「正義」。正義とは自分のことだけではなく、他者や共同体のことを重んじることのできる力。この4つの力があれば幸福実現につながる。このようなことをアリストテレスは言いました。しかし、これらの力は一朝一夕に身につくものではありません。国語や数学の力をつけるときには数多くの問題を継続して解きます。それと同じことです。この4つの力をつけるために本大学院では、課題を課しています。ある時はひたすら書籍を読み、ある時は実地に現場を訪問します。各教員の出す様々な課題をクリアしながら、2年間で賢慮、勇気、節制、正義という幸福に必要な力を身にまとうていくのです。人間の性格や人柄は日々の行動の積み重ねによって形成されます。人の現在の姿は決して、運命や偶然の結果ではありません。生まれてから今までおこなってきた長い時間にわたる行動の表れなのです。意識の有無にかかわらず、現在の姿を選び取ってきたのです。院生には今後も大学院が出す課題を一つ一つ、クリアしながら幸福になる源である4つの力を確かなものにしてほしいものです。また、人間はひとりでは生きていくことはできません。必ず、何らかの形で人とつながっています。ではどのような人とどのようにつながっていけばいいのでしょうか。アリストテレスは人とのつながりを友愛という言葉で説明します。友愛に

は3種類あると言います。ひとつは、有用性に基づいた友愛、たとえば、試験の前にノートを貸してくれる「自分にとって」役に立つ人、もうひとつは快樂に基づいた友愛、「自分にとって」快いものを与えてくれる人、2つの友愛は「自分にとって」という自己中心的なものです。相手に有用性や快樂を感じなくなると友愛の情も消えてしまいます。ですから、そこには安定性や持続性がありません。最後のひとつは人柄の良さに基づいた友愛です。これをアリストテレスは真の友愛と呼んでいます。人柄は簡単には変わらないから持続的であり、安定性があります。では人柄の良さとは具体的にはどのようなもののでしょうか。それが先ほどの「賢慮」「勇気」「節制」「正義」に基づく人格です。この4つの力の育成は習慣の積み重ねであり、継続的、持続的に自らの行動を戒めていかねばなりません。4つの力を育んだ人間であれば、自然と同じ価値観に基づいた人が集まってきます。院生には他者と人柄のよさに基づく友愛を育んでもらいたいのです。ただし、人柄に基づいた友愛が形成されるには長い時間がかかります。まずは自分自身を磨かねばならないし、また4つの力を兼ね備えている人が社会には少なく、出会いも限られているからです。誰でも青年期は人格が未完成です。長い年月、正しい習慣の継続によって人格が完成されます。しかし、そのことに気が付いている人は案外少ないのです。本大学院はその人柄に基づく友愛を育める心の種をもつ人材の宝庫です。前後左右、どこを見ても、その素養がある人ばかりです。人との出会いのはじめは有用性でも快樂からでもいいのです。最初から人柄に基づいた友愛は難しい。出会ったすぐ隣の人と長い年月をかけて、人柄に基づく真の友愛を育んでもらいたいものです。人間として充実したあり方をしており、そのことに喜びを抱きつつ日々生活を送っている、そういう人同士が親

しい関係を結べば、相手への信頼関係の中で心が開かれ、おのずと楽しい時間を過ごすことができます。そうした人たちは困ったことがあれば、助けられます。このように人柄に基づいた友愛を実現している人たちは結局、快樂も有用性もその内部に含んでいるのです。大学院で出会った友をどうか大切にしてください。必ずや、一生の友となることでしょう。